



# 新座中だより

学校教育目標

強く 明るく 考える

〒352-0011 埼玉県新座市野火止二丁目4番1号

電話(048)478-3668 FAX(048)482-0131

新座市立新座中学校

令和5年度 特別号《令和5年度学校評価》

令和5年度の学校評価を公表します。これを基に令和6年度の教育活動にさらに改善を図っていきます。

**自己評価** 職員による評価、保護者・生徒による学校評価を基にして職員会議で職員全体の評価をまとめたものです。

**学校関係者評価** 学校関係者評価委員会(校長が委嘱した7名の委員で構成。学識経験者、民生委員、主任児童委員、卒業生の保護者、保護者)でまとめたものです。

**評価基準** S:目標を完全に達成できた状況 A:目標をほぼ達成できた状況(達成度9割以上) B:目標を達成できなかった状況(達成度9~7割) C:目標を達成できなかった状況(達成度7割未満)

※ 本年度より質問項目が刷新されました。経年変化についての分析は次年度から行います。

## 評価項目「組織運営」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は学校教育目標の実現に向けた組織運営を行うべく、「ICTの活用」「教育課程の見直し」「最適な学びの提供」に取り組んでいる。	A	校長の経営方針に則り、教職員は目標の実現に向けて組織的な取組を進めている。教育課程の見直しは即時性のあるものと長期的に変えていかなければならないものに分けて行われている。	A	校長のリーダーシップと教職員の努力により、新しいことに取り組む姿勢が見られると共に、学校・教室に活気が感じられた。「生徒ファースト」の意識は今後も大切にしながら、仕事に対する優先順位・見直しをもち、「教職員の働き方改革」をバランスよく進めてもらいたい。

## 評価項目「学力向上」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は生徒の学力向上のために、「指導と評価の一体化」「ICTの活用」「各教科の見方・考え方を軸とした授業」を念頭に置いた教育活動を行っている。	A	年3回の教科部会を設定し、各種学力・学習状況調査の分析や学力向上プランの見直しを図りながら教育活動を展開している。ICTの利用率は昨年度より大いに伸長したが、「活用」の面では課題が残る。	A	昨年度よりもICT活用による授業内容に工夫が感じられ、学力向上への取組として評価したい。しかし、実際にその取組が学力向上につながっていないようでは意味がないものになってしまう。「学力とは？」の議論を深め、学力の向上につながるICT活用を推進してもらいたい。

## 評価項目「豊かな心の育成」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は生徒の豊かな心の育成のために、「対話・尊重・協働の意識づけ」「進んで挨拶する環境の醸成」「個性を認め合える環境づくり」を行っている。	A	明るい人間関係の構築のために、学級経営・道徳科授業の充実を両輪にして豊かな心の育成に取り組んでいる。昨年度からの課題である挨拶についてはおおむね改善されてきた状況があるが、来校者への挨拶はまだまだ課題が残る。	A	個々を認め合える学校生活の醸成、信頼、尊敬できる友達や先生との出会いのある楽しい学校づくりに努めている。挨拶や礼儀は、型から入る部分も含め、人間が互いに気持ちよく生活する上で大切なことである点を繰り返し教え、「何のため？」の意味を考えさせる指導を続けてもらいたい。

## 評価項目「健康・体力の向上・安全」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は生徒の健康・体力の向上・安全のために、「体力向上」「食育」「危機管理体制の整備」を推し進めている。	A	「体力向上」「食育」「危機管理体制の整備」の推進はおおむね満足できる状況にある。特に緊急事態発生時の組織的な行動は、研修や訓練の効果が表れ、迅速に対応することができている。今後も様々な状況設定による事故対応の訓練を行うことと事故の未然防止に努める。	A	「新座中学校の自慢は給食がおいしいことだ」という生徒の声を聞いた。健康・体力向上・安全は学校生活の基盤である。昨今各地で起こる災害等を教訓に、不審者・地震・火災の備えを常に継続して実行し、「いつ来ても大丈夫！」と言えるように整備してもらいたい。

## 評価項目「保護者・地域との連携協力」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は保護者・地域との連携や協力を推進するために、「地域との対話」「情報提供」「開かれた学校」に関する取組を積極的に行っている。	A	「学校HPによる情報発信」「授業公開日の実施」「地域人材を活用したキャリア教育」など、保護者・地域との連携を意識した取組を展開した。教職員や参加された方からのアンケート結果等をフィードバックし、次年度につなげていく。	A	学校HPによる情報発信や定期的な学校公開は、保護者・地域への理解と信頼につながっている。引き続き学校は、学校として独立してあるだけでなく「地域の中にある」学校という意識をもって進めてもらいたい。

以上の学校評価を受けまして、来年度も「強く・明るく・考える 生徒」の育成を目指し、次のように取り組みます。

### ○「学力向上」

- 基礎学力を定着させるために、少人数学習の活用やICTの活用等指導方法の改善に努め、生徒の学習意欲を向上させ、主体的に臨むことができる授業を展開する。
- Qubena、ロイノートを日常的に活用しながら、生徒の発達や能力に応じた指導・支援を推し進める。

### ○「豊かな心の育成」

- 生徒一人一人が学級や学年での役割を自覚し、集団生活をより良くしようとする学級・学年経営を行う。
- いじめ等に対して、常に起こりうることを自覚し、特に予防・早期発見・解決に向けて取り組む。
- 場に応じた言動を行えるよう、粘り強く指導を繰り返し、教職員自らが手本となる。